



## てんかんセンター巡り 第30回



# 京都大学医学部附属病院 てんかん診療部門

### 施設概要

住所 606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54  
電話 075-751-3111 (代表)

日本てんかん学会専門医 7名(神経内科6名、小児科1名)

病床数、診療科 1,121床、36診療科。神経内科/てんかん・運動異常、脳神経外科、小児科、精神科

脳波検査 長時間ビデオ脳波モニタリングユニット 3床(神経内科/てんかん・運動異常2床、小児科1床)

### 特徴

京都大学医学部附属病院 てんかん診療部門では神経内科/てんかん・運動異常、脳神経外科、小児科、精神科、放射線科、脳機能センターなどと合同で月1回のカンファレンスでの情報共有など、密接な連携をとり、集学的な立場からてんかん・運動異常症の診断・治療・高度先進医療を実践しています。難治例の手術適応の検査、診断目的、最適な

抗てんかん薬の選択についての紹介受診などに対応し、近畿圏はもとより幅広い地域からの紹介を受けています。

### 取り組み

(1) てんかん外来・関連他施設との病診連携の推進: 神経内科/てんかん・運動異常、脳神経外科、小児科、精神科外来にて複数のてんかん専門医による専門外来診療を行っています。症状を抑えることを目的とした、抗てん



てんかん診療部門スタッフ集合写真

かん薬の投与を中心とした治療に取り組んでいます。平成28年度は約1,300名のてんかん患者の外来診療、300名に及ぶ新規紹介を受けています。

**(2) 入院でのてんかん病態の検査：**長時間ビデオ脳波モニタリングユニット(EMU)が神経内科2床、小児科1床あり、ほぼ常時稼働しています。てんかんと非てんかん発作の区別、難治例や外科治療適応の判断に必要なてんかん焦点の正確な診断を行うことを目的としています。近年は難治のてんかんで、抗てんかん薬以外に免疫治療が有効である自己免疫性脳炎についても症例が増えています。

**(3) てんかん外科：**薬が効かない場合、大脳の一部切除も有効であることから、脳神経外科・神経内科との共同で手術適応に関する検査の診療協力体制ができており、1992年以来190例を超えるてんかん外科手術を行ってきました。

**(4) 各種脳機能診断：**脳波、脳磁図、核医学検査(PET検査や発作時SPECT検査)、超高磁場MRI<sup>（すかい）ない</sup>、頭蓋内電極留置、神経心理検査、髄液検査などの検査が実施可能です。

## 患者さんへのメッセージ

てんかんかどうかの診断、てんかんの正確な診断から薬剤調整、外科的治療の適応までお気軽に受診し、相談なさってください。け



**JEPICA**  
Japan Epilepsy Center Association  
全国てんかんセンター協議会

いれんが就寝中に短時間しか出なかったり、ぼんやりしていることが実

は発作状態であることもあり、見極めは難しいため、不安があれば早めに専門医に相談してください。外来初診時には症状がおきた時に備え、看護師が対応の仕方、日常生活での注意点(入浴や水泳、自動車運転など)について丁寧に説明しています。

詳細は下記ホームページをご覧ください。

京都大学医学部附属病院(神経内科/てんかん・運動異常、脳神経外科、小児科、精神科)

<https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/departament/index.html>

てんかん・運動異常生理学講座

<http://epilepsy.med.kyoto-u.ac.jp/>

(神経内科/てんかん・運動異常

本多 正幸、小林 勝哉、池田 昭夫)

